

# 道徳通信

御幸中学校  
平成28年12月

本校保護者の岩木康彦さんと辻淑恵さんにお越し願って、ゲストティーチャーとして道徳の授業の中でお話をいただきました。



## ☆3年生 「大きな木」より☆

### 《授業について》

資料は、必要なときだけ大きな木のところにやってくる少年に対し、それでも大きな木は少年の望むものをすべて与えるというストーリーである。授業では、この少年のことをどのように思うかを問い、そのようなわがままな少年に対して、大きな木が無償の愛を注いでいることに気づかせた。さらに、少年を自分と置き換え、同じように自分を大きな愛で包んでくれている存在はないかと考えさせた。生徒たちはそこで両親などから無償の愛情を注いでもらっていることに気づき、感謝の気持ちを伝えることについても考えた。授業の最後に、ゲストティーチャーの岩木さんから、親の気持ちを語っていただき、生徒たちは親への感謝の気持ちを深めることができた。

### 《授業後の感想》

- ・自分のことを愛してくれている両親がいて、その両親に対してどのような恩返しをしたらいいのか。友だちのいろいろな意見を聞くことができてよかった。恩返しの形はいろいろあると思うが、まずは自分が愛されていることをしっかり自覚して生活していきたいと思った。
- ・普段はまったく自覚していなかったが、家族は自分に対して大きな愛を与えてくれていると思った。家族に対して、自分のできる感謝を伝える方法、何ができるかを考えることができた。
- ・今日の授業を受けて、両親が自分を愛してくれていることに対して、いつかはそれを何らかの形で返さなければいけないと思った。
- ・知らないうちに、自分に対してたくさん与えられている愛情に対して、何ができるのか、何をすべきなのかをしっかりと考えるべきだと思った。
- ・家族からたくさんの愛情をもらっているのに、直接それを伝えることは恥ずかしいし、あんまりできないと思うけど、常に感謝の気持ちは持ち続けたいと思う。



## ☆1年生 「一冊のノート」より☆

### 《授業について》

同居している男の子2人の孫の成長を何よりも楽しみにしている祖母と、そんな祖母に多くを依存しながら暮らしている孫。しかし、日々老いていく祖母との間に様々な軋轢が生じ、祖母の孫た

ちへの愛情は受け入れられず、むしろ反発となって返ってくる。そんなある日、孫の一人は祖母の部屋で一冊のノートを見つける。その中に祖母の真の愛情を知って、祖母の存在のかけがえのなさを再認識させられる資料である。

ゲストティーチャーの辻さんから、この資料は決して「資料の中だけのお話」ではなく、現実問題として多くの人が直面している問題であることを、データを用いてお話して下さった。また、高齢者福祉施設に勤務していることから、施設にいらっしゃる高齢者の方々の気持ちや家族の方との関わり方についても話していただき、祖父母と同居している生徒だけでなく、別居である生徒も、現在は元気な祖父母もいずれそのような状況になるのかもということ、そのとき自分はどうすればよいのか、考える機会を与えて頂いた。さらに、今後4人に1人の割合で発症するといわれている認知症についても説明していただき、資料の内容を深めて頂くことができた。

### 《授業後の感想》

- ・私もおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に暮らしていて、小さい頃から面倒を見てもらっていた。まだ元気だけど、いつかは歳を取っていくにつれて病気になってしまうのかなと思うと、次は私が面倒を見る番だと感じた。
- ・うまくできないことに対してついイライラしてしまいそうだけど、これから4人に1人の割合で認知症になってしまうから、認知症という病気について知ることが大切だと思った。
- ・日本は高齢化社会で少子化で、お年寄りの人たちの面倒をみななければいけないと思ったし、その人その人に合った対応を考えて、優しくしたいと思った。
- ・私のおばあちゃんも、資料のおばあちゃんとほとんど同じで、家族の物とかを片付けてどこに行ったかわからなくなることがある。だから「僕」の気持ちがすごくわかった。でも、おばあちゃんの記事を見て、自分のおばあちゃんも同じようなことを思っているかもと想像すると、これからおばあちゃんと接するときには気をつけたいと思う。



友だちの保護者でもあり、よく知っている生徒もいたのか、温かい雰囲気の中で授業を進めることができました。授業では、普段聞くことのできない親の本音であったり、現場で働く方から聞く話であったり、生徒たちは真剣な表情で話に耳を傾けていました。

ゲストティーチャーをお願いして授業をするにあたって、授業で使う資料やねらいなどをしっかり伝え、ゲストティーチャーの思いを十分理解した上で授業を組み立てることの難しさを感じました。今回はうまくいったところもありましたが、本来であればもっと綿密な打合せが必要だろうと思います。ですが、仕事のご都合もありなかなか難しく、ゲストティーチャーを引き受けてくださるということ自体が本当にありがたいことだと感じました。

岩木さん、辻さんにはお忙しい中、大変ご無理を言ってゲストティーチャーを引き受けていただきました。本当にありがとうございました。